

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

『保護者面談のポイント』

1 面談で配慮すること **聴き上手!**

- (1) 事前に面談の目的・場所・メンバー・終わりの時刻を確認する(会次第を作る)
- (2) 能動的・積極的・意識的に聴く!(聴いてもらうだけで心が軽くなる)
- (3) 複数で対応する(園や学校の連帯感が安心感につながる)
- (4) 情報提供をするが結論は急がない(安易な理解・早急な助言は反発を招く)
- (5) 共感と肯定的な表現を心がける(悩みを共有し、保護者の頑張り伝える)
- (6) 情報を共有してかみ合う部分を探す(考え方が違うのが当たり前が前提)
- (7) 就学や進路と結び付ける(常識にとらわれない)
- (8) 細かい記録は取らず、あとで整理する(身体で聴く)
- (9) 期間を設けて変容を評価し、次の面談予定を提案する(支援を継続する)

人は説得ではなく納得して動くので、子どもの困り感や変容が分かるようなノートや作品、「個別の指導計画」等をもとに面談すると、思いのカタチが重なる。

2 話しやすい状況づくり **観察上手!**

- (1) 表情(微笑みは雰囲気や和ませる 話し手の表情に合わせる)
- (2) アイコンタクト(目線を相手の目元、頬から首の辺りに 目で聴く)
- (3) 姿勢を正す(人は態度で判断 腕組み・足組みは拒絶のシグナルとなる)
- (4) うなずく(もっと話してほしい 理解しているというメッセージとなる)
- (5) 相槌をうつ(話を引き出す効果がある・なるほど・すごいですね)
- (6) キーワードを復唱する(聞いてもらえたという安心感が心を開く)
- (7) 保護者と言葉をそろえる(同じ言葉を使うことで一体感が生まれる)
- (8) 子どものよいところや頑張り伝える(心を開くきっかけとなる)
- (9) 共感できる話題を探す(似たような経験を紹介することで親近感が生まれる)

非言語的なメッセージが話しやすい状況をつくる。声が小さくなった、話すテンポが速くなった、身を乗り出してきた、表情が明るくなった等、変化を見抜きながら進める。



相談・支援活動から



- 「中学1年の息子が小さい頃から父親との関係をうまく築けなくて困っている」という母親の相談。
- ・人は「仲間になりたい」という気持ちがあるので、自分に好意をもっていることが感じられる相手に好感をもつ。自分から相手を好きになれば、相手も自分を好きになり、自分もさらに相手を好きになる好循環が生まれる。子どもが力を発揮するためには、父親を好きになることが重要である。特に、子どもは母親が悪く言う人のことを好きにならない。子どもには、父親のよい部分に目を向けて好きなることを教え、目の前で悪口は言わないようにする。
 - ・お父さんを変えるためには、お母さん自身が考え方を考える。「SOS」を実行する。**S(さすか) O(教えて) S(すごい)**、お父さんをほめて、頼って、おだてる。さあー、レッツトライ!